

授 業 科 目 名	国際社会論	教 員 名	小柴裕子	免許・資格 との 関係	小学校教諭	
					幼稚園教諭	
					保育士	選択
授 業 形 態	講義	担当形態	単独	卒 業 要 件	こども音楽療育士	
科 目 番 号	K0K202	配当年次	2年後期		小幼コース	選択
単 位 数	2単位				幼保コース	選択
科 目						
施 行 規 則 に 定める科目区分 又 は 事 項 等						
一 般 目 標	・めまぐるしく変動する国際社会の現況と課題について、多元的な視座から学ぶ。 ・言語教育や異文化交流を通じて国際社会に関わる方法を考える。 ・国際社会の一員としての役割を主体的に捉えられるようにする。					
到 達 目 標	(1)講義で学んだことを簡潔にまとめられる。 (2)文献をまとめ、発表できる。 (3)グループワーク（資料収集と分析、インタビュー、アンケートなど）を実施し、発表できる。 (4)自分が考えた課題とその解決策を伝えることができる。					
授 業 の 概 要	本講義では、現代の国際社会の基本構造と主要な課題について学び、グローバル化の進展が私たちの生活や教育にどのような影響を与えているのかを考察する。特に、言語教育や異文化交流、多文化共生などの教育実践を基盤に多元的な視座から、国際社会における人と人とのつながりを検討する。講義とディスカッション、事例研究を通じて、学生自身が国際社会の一員として果たす役割を主体的に考えられるようになることを目指す。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本講義は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「1. 社会・教育等に関連する国内外の様々な問題について、現状・課題を認識し、その解決策を考察できる能力を身につけている。」「4. 教育に関連する事柄について、継続的・主体的に学ぶ学習能力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授 業 計 画	第1回：オリエンテーション 授業のねらいや進め方、成績評価等について（目標(1),(2)） 第2回：国際社会論（理論的枠組み） 国際社会論とは（目標(1),(2)） 第3回：言語教育① 外国語教育と日本語教育（目標(1),(2)） 第4回：言語教育② 外国語教育と日本語教育（目標(1),(2)） 第5回：グローバル化と異文化交流① 異文化摩擦、文化相対主義、他者理解の枠組み(目標(1),(2)） 第6回：グローバル化と異文化交流② 異文化摩擦、文化相対主義、他者理解の枠組み(目標(1),(2)） 第7回：多文化共生① 事例研究（目標(1),(2),(3)） 第8回：多文化共生② 事例研究（目標(1),(2),(3)） 第9回：調査と発表準備① グループに分かれて課題について調査します。(目標(2),(3),(4)） 第10回：調査と発表準備② グループに分かれて課題について調査します。(目標(2),(3),(4)） 第11回：調査と発表準備③					

	グループに分かれて課題について調査します。(目標(2),(3),(4)) 第12回：調査と発表準備④ グループに分かれて課題について調査します。(目標(2),(3),(4)) 第13回：発表① グループごとにプレゼンテーションを行います。(目標(2),(3),(4)) 第14回：発表② グループごとにプレゼンテーションを行います。(目標(2),(3),(4)) 第15回：まとめ
学 生 に 対 す る 評 価	課題・レポート(40%)、プレゼンテーション・グループワーク(60%)を総合して評価する。
時 間 外 の 学 習 に つ い て	予習：講義で扱うテーマに関する指定資料について事前に目を通し、自分なりの疑問点や意見をメモしておくこと。 復習：講義で議論した内容を整理し、リアクションペーパーやレポートにまとめること。特に専門用語や理論的枠組みについては、自分の言葉で説明できるように復習すること。 追加学習：グループの発表では、主体的に課題について取り組むこと。 本講義の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
テ キ ス ト	講義時に適宜プリントを配布する。
参 考 書 ・ 参 考 資 料 等	参考書・参考資料等は、適宜紹介する。
担当教員からの メ ッ セ ー ジ	シラバスは、講義の進捗等により変更の可能性があります。
オフィスアワー	講義前後の時間。その他必要に応じて行う。